

ショートコメント vol.197 (2021年2月22日)

テーマ：電子部品の輸出先にみられる異変

～米中摩擦の影響か。長期トレンドとなるかが注目～

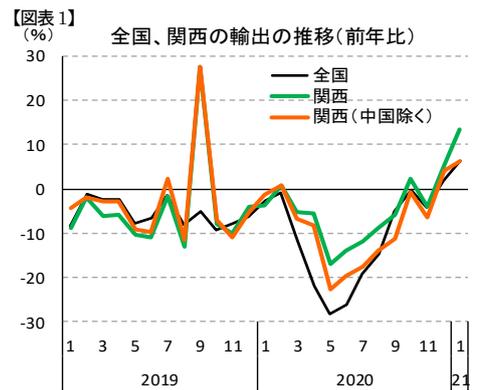
●順調な回復をみせる輸出動向

先日発表された1月の輸出動向は、関西では前年比で13.3%増と2か月連続で前年を上回った。

中国の春節の時期が年ごとに変わるため、その影響で前年比が改善した部分が多いものの、それを差し引いても好調な動きとなっている(図表1)。

輸出と生産の動きは連動性が高いため、足元の輸出の好調により、生産も概ね堅調な推移が続いている。新型コロナウイルスの影響で消費の低迷が続く中、今や輸出、生産が関西の景気を支える格好となっている。

そういった中で、足元の輸出で注目されるのは、電子部品関連の動きである。電子部品といえば、かねてから関西の輸出の牽引役であり、足元も全体としては好調に推移している。



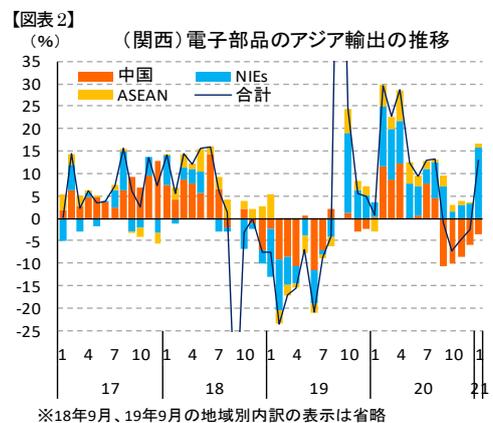
(出所)財務省「貿易統計」、以下同じ

●電子部品の輸出先にみられる異変

電子部品の輸出は主にアジア向けが中心であり、中国やアジアNIEs(韓国、台湾、香港、シンガポール)が大半を占める。そういった中、アジア向けの電子部品の輸出を地域別にみると、これまでは同じようなトレンドで推移してきたが、足元では乖離がみられる。アジアNIEsとASEAN(東南アジア)が増加する一方、中国のみが減少する形となっている(図表2)。

上で述べたように、中国への輸出そのものは春節要因でむしろ増えているため、この乖離は中国の景気の変化に起因するものではなく、電子部品特有の現象といえよう。しかも春節要因を跳ね返すほどの、非常に大きなものと考えられる。

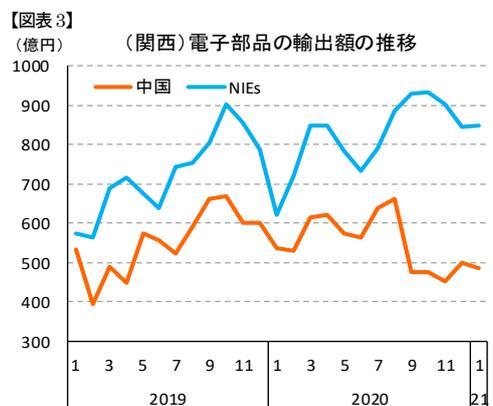
中国向けの減少が始まったタイミングをみると、2020年の9月からとなっている。9月といえば、米国による中国・華為技術(ファーウェイ)向けの禁輸措置が本格適用された時期にあたる。この時期を境に、同社向けのスマホ部品などの輸出がストップしたとみられる。もちろん、これが全ての原因ではないものの、大きな要因であることは間違いなからう。



※18年9月、19年9月の地域別内訳の表示は省略

●中国の減少を補完するアジアNIEs

注目されるのは、あたかも中国向けの減少を補完するように、アジアNIEs向けが増加していることである(図表3)。実際に、直近のIT関連市場では、ファーウェイによる生産が減少する一方、その穴を埋めるように、台湾の鴻海精密工業(ホンハイ)などの生産は増加が続いている。



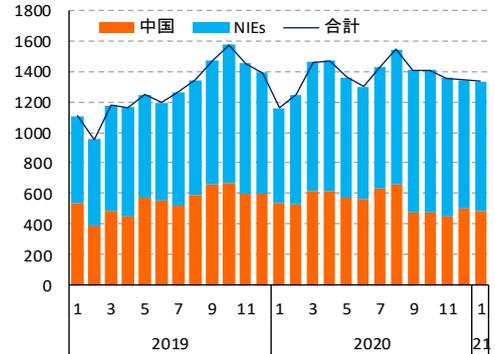
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

つまり、関西の輸出の直近の動きについては、アジアのIT市場のシェアの変化をそのまま示したのもいえよう。現に、中国向けとアジアNIEs向けの輸出を合計すると、ほぼ一定の推移となっている（図表4）。

今後の注目点は、この傾向が長期トレンドとなるかどうかであろう。これはファウエイ関連の影響だけでなく、米中摩擦自体による企業の生産拠点のシフトの影響も含まれる。この点はまだ予断を許さず、ファウエイ向けの禁輸措置による短期的な変化に終わる可能性は残されている。

しばらくは電子部品の輸出動向に注目する必要があるといえよう。

【図表4】 (関西)中国、NIEs向け電子部品の輸出額 (億円)



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。